

〔簾中舊記〕正月御はがためやうだい

一御はがためのこと、御日どりまだいにて候ほどに、日は定り候はず候、ぶぎやうはとき／＼により候、いせびつちう大くちひた、れにて、御はうのよき御かたにをしへおき参らせ候、此御方よく御入候と申され候へば、なり候て御むかひ候、大上らふは、忍ぬひものめして、むねのまほり御かけ候て、御はかまめし候、御かたくちにて九こん参らせ候、此御盃はつぼき物にて候、三の御さかづきもまゐり候、それは御てうしにて候、小上らふは、もにかみをめし候て、忍ぬひ物めし候、御かたくちと御てうしとを、上らふへまゐらせられ候、御所さまの御たち候へば、御なかがしらの人、忍ぬひ物にはかまめし候て、まほり御かけ候て、下にまかれ候きぬにつ、みて、びやくさんのはこのふたにすゑ候て、御すゑへ御出し候、御所□□もまゐり候、上さまのはそのときの御うぶすなへ参らせ候とて候、御まへにて伊勢に上の御さかづきたびて、御ふくたび候、御するにて、御いはひ、ぶぎやう三の御さかづきいたゞき、御ふくたび候、伊勢には小上らふ御まやく、ぶぎやうには御なかがしらたび候、

〔正月祝儀飾之繪圖〕一御はがため参次第之事略○圖

一此とき三ツの御盃参候、朝供御三迄参候

てくだるなり略○中

正月吉日に御はがため之祝之事

一吉日をえらび、御はがため参候、雪松と申ものを調進候なり、一同日公方様へも参候、同御臺様へも参候、勢州之御手ながなり、おり物の御服頂戴候、一六膳参候、此膳に雪松をくみ付候、此御はしの臺に、盃も居申候略○圖 右御齒固也

〔台記〕久安七年正月一日癸酉、齒固手水如常、

〔山槐記〕保元元年正月一日癸卯、向生氣方有齒固事來八日爲正月、節仍用去年方、